

グループ発表の内容(第8回絆研修② 令和5年10月29日)

◇グループワーク① 現状の問題点と対策について

【現状と問題点】

- ・嚥下状態の低下に食事量の低下から体重減少、認知機能の低下等の病状の悪化。
- ・ADLの低下による家族の介護負担増
- ・本人と家族との思いの相違。家族間の考えの相違。
- ・特に本人の病状に対して家族間の理解度が違う。
- ・本人は「自宅で暮らしたい」という思いがあるが、介護負担が増え、また全身状態が悪化していることから、妻は自宅で暮らすことが難しくなっていると感じている。長男は「施設入所」を考えている。
- ・本人や家族それぞれに心配事や気がかりがある。

【対策】

- ・本人や家族の意向を確認する。特に妻が考えている不安などについてはどこまで伺えるのかはわからないが、重要。
- ・専門医へ受診する。事実として今後の病状経過について話をする。
- ・サービス担当者会議で心配事や考えを集約していく。支援の方向性について確認する。
- ・訪問リハビリテーションのサービスを増やす。
- ・利用できるサービスを増やす。(ショートステイなどの泊りのサービス)
- ・嚥下の課題についてはSTに評価してもらう必要がある。
- ・最終的な手段としての施設入所。
- ・心配事や気がかりに対してしっかりと伺って整理し、主治医の立場の人が今後の見通しについてしっかりと話をしていく。急変時だけに限らず、何かあったときにどうすればよいのかを説明し理解をして頂く。
- ・介護者妻の介護予防を行う。
- ・薬剤の変更や検討のために薬剤師の介入。具体的に内服薬1日3回を1回に集約する事への検討やアドバイス。
- ・在宅管理栄養士の介入。栄養補助食品の提案。
- ・一般的な事例を通して今後の見通しをイメージして頂く。
- ・お薬カレンダーの導入。

◇グループワーク② ACP について考える

将来、事故や病気などで身の回りの事(食べることも含め)ができなくなり、自分の考えを伝えられなくなった時に…

【あなたならどのようにしてほしいですか】

- ・在宅ではなく、施設に入所させてほしい。
- ・なるべく家族の負担にはなりたくない。
- ・延命治療はしてほしくない。
- ・周りの人に迷惑をかけたくないため、自宅以外の所で過ごしたい。
- ・身の回りが出来る限り自分で出来るようにリハビリをしたい。
- ・自宅で過ごしたいと思っても、本心を隠して家族等に迷惑をかけないようにしたい。
- ・自分としては延命は必要ないと思っているが、家族が少しでも長く生きてほしいと思っているなら、点滴くらいの医療は受けてもいい。
- ・自分が幸せな生活が送れるように専門職の方にはお願いしたい。絆研修に集まっている専門職の皆さんであれば自分の希望にこたえてくれるのではないかと期待しているので、皆さんにお願いしたい。

【大切なご家族がこのようになった場合、どのようにしてあげたいですか】

- ・できるだけ、自宅で過ごさせてあげたい。
- ・本人の希望を出来るだけ聞いてあげたい。(が、実際はそれに関する話をしたことがない)
- ・家族自身に希望がある間は少しでも自宅で過ごさせてあげたい気持ちがある。
- ・生活環境、空間を(本人が好きだった)なるべく変えずに過ごさせてあげたい。
- ・日常生活の中でなるべく本人の気持ちを聞いて、意向に沿って最期を迎えてほしいと思う。

【その他気付き】

- ・自分は家族には迷惑をかけたくないが、家族が自宅にいないことはさみしいと感じてしまうために自宅で過ごしてほしい。大切な人にはそばにいてほしいと思った。
- ・家族と ACP に関する話をどう切り出していくのかが難しい。話をしてみたとしても確信にせまることは難しい。なかなか聞きづらい。
- ・あらためて大切な家族に ACP に関する話をするのではなく、日々の会話の中から「あのときこう言っていた」「葬儀の話はこう話していた」等、エピソードを集めてそれを根拠に、対応していけばいいのではないか。
- ・もしも ACP の話題を出すのであれば、お盆やお正月など家族が集まる日にしてはどうか。または誕生日に「今年 1 年どんな 1 年にしたいか」等質問の仕方を工夫してはどうか。
- ・自分の過ごしてきた空間を、介護が必要になったからと言って他の人に変えられるのは受け入れ難い。自分で意志を伝えられなくなったとしても、その状況が分かる状態にあるとき、辛い為、それなら施設に入所したほうがいい。

- ・普段から今後のことについて話をしておくことが大切だと思った。そのためにはきっかけ作りが必要。身近なところで変化があったときに話すのもイイと思う。
- ・親が先に亡くなるとは限らない場合(例えば子供など)のことを考えると、親や祖父母だけではなく子供も含めて普段から何かあったときのことを話題にしておくことは大切だと思う。しかしタイミングが難しい。亡くなるなど、ネガティブな Word ではなく、元気で過ごしていけるならどうしたいか、どう生きていきたいかなどポジティブな聞き方をした方が良いと思う。
- ・悩むときには誰かが一緒にいてくれることが大切。一緒に悩んでくれる専門職や、ご近所さん、友人、家族みんなを巻き込んでいけると良いと思う。